

環境活動レポート

2010年度版

(2011年1月から2011年3月まで)



株式会社 アサヒリソース
発行 2011年4月30日

会社概要

1. 商号 株式会社 アサヒリソース

代表者 代表取締役 藤田 幸男

役員 専務取締役 安藤 哲也

2. 所在地 本社： 神奈川県横須賀市久里浜2丁目25番9-405号
〒239-0316 (本社登録のみ:業務に使用せず)

営業所： 神奈川県横須賀市長井5丁目31番23号

〒238-0316 (業務執行場所)

TEL 046-847-1366

FAX 046-857-2030

床面積 71.21㎡

作業所： 神奈川県横須賀市津久井2丁目1002番

〒239-0843

敷地 コンクリート床 330.57㎡

アルミ定置型坩堝炉 4.06㎡

液物タンク 危険物(灯油) 0.225㎡

倉庫： 神奈川県三浦市初声町和田1753番2

〒238-0114

敷地 コンクリート床 373.00㎡

倉庫 コンクリート床 43.06㎡

3. 設立 平成 元年 5月 15日

4. 資本金 540万円

5. 従業員数 9名

6. 施設の概要

1) 車 両

普通貨物	自家用	ロング	最大積載量	2,000 kg	運搬品目	別記
小型貨物	自家用	ダンプ	最大積載量	2,000 kg	運搬品目	別記
普通貨物	自家用	ダンプ	最大積載量	3,000 kg	運搬品目	別記
普通特殊	自家用	塵芥車	最大積載量	2,000 kg	運搬品目	別記
普通貨物	事業用	バン	最大積載量	2,000 kg	運搬品目	別記
小型貨物	自家用	ダンプ	最大積載量	650 kg	運搬品目	別記
軽貨物	自家用	ダンプ	最大積載量	350 kg	運搬品目	別記
小型特殊	自家用	フォークリフト	最大積載量	2,000 kg	運搬品目	別記
小型特殊	自家用	フォークリフト	最大積載量	2,000 kg	運搬品目	別記

2) 施 設

軽合金坩堝炉	炉形式	SEP-200
30トンプレス機	形式	SNP-30
8トンプレス機	形式	50-500
2軸破碎機	形式	V6-228K

環境保全対策

収集運搬容器は飛散・流出しないよう密閉ドラム及びポリタンクを使用
 ロープ・シート・ネットの使用により固形廃棄物の散乱に対処
 悪臭・振動・騒音など生活環境保全上支障がないような措置を行う

7. 運搬品目及び取扱処理料

1) 平成22年1月～12月

行政資源回収		産業廃棄物		一般廃棄物	
新聞	871,180 kg	混合	14,580 kg	燃せるゴミ	9,540 kg
段ボール	341,100 kg	紙くず	0 kg	容器包装	1,960 kg
雑誌	447,660 kg	廃プラスチック	21 m ³	不燃ごみ	1,460 kg
ボロ	177,625 kg	がれき	0 kg	紙類※	6,000 kg
一升瓶	110 kg	金属くず	0 kg	金属類※	2,400 kg
ビール瓶	240 kg			缶ビンペットボトル※	0 kg
P箱	10 kg				
アルミニウム	6,120 kg				
鉄	76,070 kg				

※紙・金属・缶・ペットボトル類はリサイクルに供します

2) 平成23年

1月

行政資源回収	
新聞	68,395 kg
段ボール	32,523 kg
雑誌	35,495 kg
ボロ	12,185 kg
一升瓶	0 kg
ビール瓶	0 kg
P箱	0 kg
アルミニウム	407 kg
鉄	4,480 kg

産業廃棄物	
混合	2,270 kg
紙くず	0 kg
廃プラスチック	0 m ³
がれき	0 kg
金属くず	0 kg

一般廃棄物	
燃せるゴミ	370 kg
容器包装	170 kg
不燃ごみ	730 kg
紙類※	500 kg
金属類※	200 kg
缶ビンペットボトル※	0 kg

※紙・金属・缶・ペットボトル類はリサイクルに供します

2月

行政資源回収	
新聞	75,135 kg
段ボール	27,467 kg
雑誌	36,095 kg
ボロ	10,795 kg
一升瓶	28 kg
ビール瓶	12 kg
P箱	0 kg
アルミニウム	522 kg
鉄	5290 kg

産業廃棄物	
混合	0 kg
紙くず	0 kg
廃プラスチック	0 m ³
がれき	0 kg
金属くず	0 kg

一般廃棄物	
燃せるゴミ	190 kg
容器包装	100 kg
不燃ごみ	0 kg
紙類※	500 kg
金属類※	200 kg
缶ビンペットボトル※	0 kg

※紙・金属・缶・ペットボトル類はリサイクルに供します

3月

行政資源回収	
新聞	71,830 kg
段ボール	24,898 kg
雑誌	41,765 kg
ボロ	11,065 kg
一升瓶	8 kg
ビール瓶	3 kg
P箱	0 kg
アルミニウム	515 kg
鉄	6080 kg

産業廃棄物	
混合	1,880 kg
紙くず	490 kg
廃プラスチック	0.8 m ³
がれき	0 kg
金属くず	0 kg

一般廃棄物	
燃せるゴミ	240 kg
容器包装	120 kg
不燃ごみ	410 kg
紙類※	500 kg
金属類※	200 kg
缶ビンペットボトル※	0 kg

※紙・金属・缶・ペットボトル類はリサイクルに供します

4月

行政資源回収		産業廃棄物		一般廃棄物	
新聞	61,215 kg	混合	2,270 kg	燃せるゴミ	700 kg
段ボール	25,670 kg	紙くず	0 kg	容器包装	0 kg
雑誌	44,850 kg	廃プラスチック	0.3 m ³	不燃ごみ	410 kg
ボロ	13,365 kg	がれき	0 kg	紙類※	580 kg
一升瓶	2 kg	金属くず	0 kg	金属類※	200 kg
ビール瓶	0 kg			缶ビンペットボトル※	0 kg
P箱	0 kg				
アルミニウム	596 kg				
鉄	5,960 kg				

※紙・金属・缶・ペットボトル類はリサイクルに供します

8. 許可の内容

1) 産業廃棄物収集運搬業

市・県名	許可番号	許可年月日	許可の有効年月日
神奈川県	1401110402	平成19年9月3日	平成24年9月2日
川崎市	第05700110402号	平成21年5月1日	平成26年4月30日
相模原市	第09800110402号	平成21年7月15日	平成26年7月14日
横須賀市	第05800110402号	平成21年5月28日	平成26年5月27日
横浜市	第56-00-110402号	平成19年9月1日	平成24年8月31日

・事業の範囲 事業の区分

積み替え又は保管を除く

・産業廃棄物の種類

廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動物性残さ、金属くず、ガラスくず、がれき類、(これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く)

2) 一般廃棄物収集運搬業

市・県名	許可番号	許可年月日	許可の有効年月日
横須賀市	第60号	平成22年6月15日	平成24年6月14日

・事業の範囲 事業の区分

積み替え又は保管を除く

・廃棄物の種類

一般廃棄物(ごみ)

9. 決算売上高 年1回 12月31日

2009年度 58,617千円

2010年度 68,789千円

10. 収集運搬料金

基本料金 450袋1枚 380円

量、距離、種類によりますので、お問い合わせください。

046-847-1366 営業担当:宮川

11. 環境管理責任者 総責任者 安藤 哲也

管理責任者 宮川 一喜 石川 諒

12. 認証対象範囲

1) 業務範囲

廃棄物収集運搬並びにアルミニウムインゴットの製造

2) 対象事業拠点

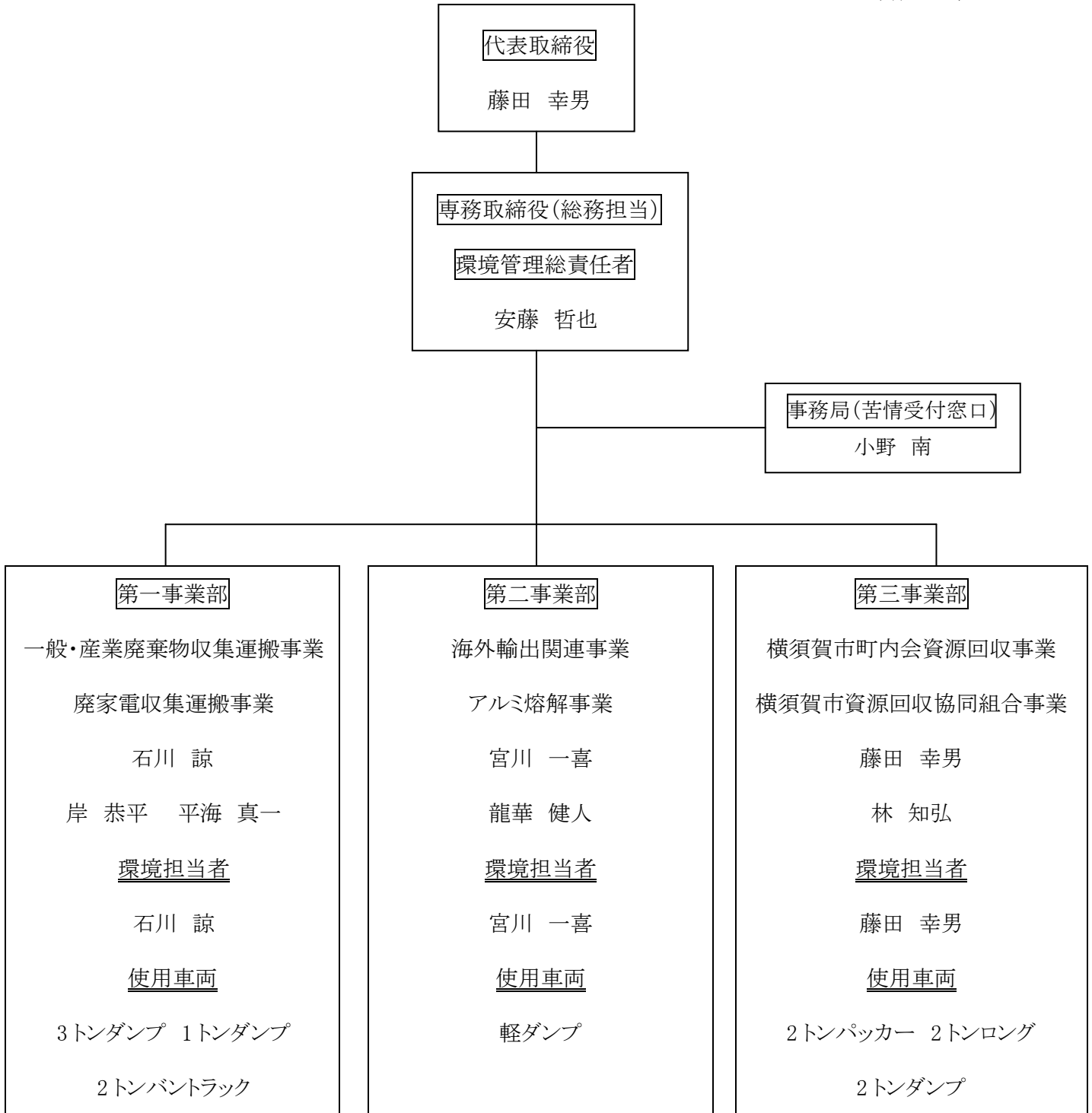
長井営業所 横須賀市長井5-31-23

津久井作業所 横須賀市津久井2-1002

初声倉庫 三浦市初声町和田1753-2

株式会社アサヒリソース 組織図

平成 23 年 1 月 27 日



株式会社アサヒリソース 環境方針

基本理念

株式会社アサヒリソースは、当社の基幹業務である産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・古紙鉄・非鉄金属リサイクルを通じて限りある天然資源の再資源化を目指すことによって、次世代に豊かで美しい地球を残すため地球環境保護に貢献いたします。

環境方針

- (1) 環境マネジメントシステムの構築と改善に取り組みます。
- (2) 環境関連の法令、条例、その他の要求事項を順守し、環境保護に取り組みます。
- (3) 事業活動において、扱う廃棄物の100%資源化を目指します。
- (4) 業務全般において省エネルギー及び地球温暖化物質などの排出削減に努め、汚染の予防を推進します。
- (5) 環境教育を通して社員の環境意識の向上を図り、全員が環境活動に取り組みます。

※環境方針は文書化し全社員に周知徹底するとともに、定期的に見直すと同時にホームページ等により社外に広く公開します。

2010年8月1日

株式会社アサヒリソース

代表取締役

環境目標及び活動計画

1. CO₂排出量の削減（担当：石川、宮川、小野）

①目標

『節電・車両及び熔鋸炉の燃費向上』

②対策

「事務所エアコンの温度設定（冷房 28±1℃、暖房 20±1℃）の徹底」（担当：小野）

「毎月各車両の燃費データを報告、目標値を設定」（担当：石川）

「各自車両の燃費向上方法を習得する」（担当：石川）

※エコ安全運転①ゆっくりスタート

②早めのアクセルオフ

③加減速の少ない運転

④不要な荷物を積まない

⑤余裕の車間距離

⑥タイヤ空気圧チェック

「年1回エコ安全運転講習会の開催」（担当：安藤）

平成23年10月開催予定

「アルミ熔鋸炉のデータ把握・評価指標の検討、設定」（担当：宮川）

2. 水道使用量の削減（担当：宮川）

①目標

『洗車用水の節約』

②対策

「節水意識の再確認、蛇口等の水漏れ点検」

3. 紙使用量の削減（担当：小野）

①目標

『紙の有効利用と使用量の削減（ペーパーレス化）』

②対策

「両面印刷及び縮小印刷等の有効利用」

「使用済み紙は自社リサイクルルートへ」

「メール利用率のアップ」

4. 廃棄物排出量の削減及びリサイクル率の向上（担当：宮川）

①目標

『事業系及び自社廃棄物の分別徹底』

②対策

「顧客に廃棄物の分別徹底の協力を依頼しリサイクル可能物は自社リサイクルルートへ」

「自社で発生した廃棄物の分別徹底の再確認をし自社リサイクルルートへ」

「容器等は洗浄乾燥させ、自社リサイクルルートへ」

「個人で持ち込んだ廃棄物は各自で持ち帰る」

「顧客の排出する廃棄物よりリサイクル可能物を選別するため産業廃棄物積替保管の許可の取得に取り組む」

5. グリーン購入（担当：小野）

①目標

『商品のグリーン購入の推進』

②対策

「コピー用紙及び文房具の購入」

目標値設定

平成22年…CO₂総排出量：98.3 t

今後5年間の目標数値を平成22年1月から平成22年12月までの総排出量より5%(毎年1%)削減値とする。

目標項目	単位	基準値 (平成22年総排出量)	目標値(総排出量)				
			H.23	H.24	H.25	H.26	H.27
電気一般	kWh	8,747	8,659	8,572	8,487	8,402	8,318
電気動力	kWh	194	192	190	188	186	184
軽油	ℓ	27,066	26,795	26,527	26,262	25,999	25,739
ガソリン	ℓ	5,016	4,965	4,916	4,867	4,818	4,770
灯油	ℓ	4,739	4,691	4,644	4,598	4,552	4,506
CO ₂ の総排出量	kgCO ₂	98,335	97,549	96,574	95,608	94,652	93,705
水道使用量	m ³	73.00	72.27	71.54	70.83	70.12	69.42
グリーン購入推進							

※購入電力の排出係数 0.000425 t-co₂/kWh

集計表

1.CO₂排出量(①電気、②軽油、③ガソリン、④灯油)

①電気(一般)

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
事業所	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
使用量(kwh)	824	944	730	2498	2392	△4%
CO ₂ 排出量(kgCO ₂ /kWh)	350	401	310	1061	1017	△4%

①電気(動力)

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
事業所	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
使用量(kwh)	18	51	18	87	28	△210%
CO ₂ 排出量(kgCO ₂ /kWh)	8	22	8	37	12	△210%

②軽油

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
トラック:6台	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
使用量(ℓ)	1487	1545	1541	4573	5470	▲ 16%
CO ₂ 排出量(kgCO ₂ /ℓ)	3901	4054	4044	11998	14353	▲ 16%

③レギュラーガソリン

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
トラック:1台	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
使用量(ℓ)	136	116	145	396	1263	▲ 69%
CO ₂ 排出量(kgCO ₂ /ℓ)	316	269	336	920	2933	▲ 69%

④灯油

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
熔鉱炉	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
使用量(ℓ)	360	209	676	1245	715	△74%
CO ₂ 排出量(kgCO ₂ /ℓ)	897	521	1686	3104	1782	△74%

⑤二酸化炭素総排出量

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
CO ₂ 総排出量(kgCO ₂ /ℓ)	5472	5266	6383	17121	20097	▲ 15%

2.水道使用量

					前年同月との比較	目標値 (増△減▲)
事業所	H23.01	H23.02	H23.03	合計	1月～3月実績	
使用量(m ³)	9	2	6	17	18	▲ 10%

環境活動の取り組み状況及び評価

I. 担当者評価(2011年4月)

1. CO₂排出量の削減について (石川・宮川)

取組全般に言えることですが、取り組みを実行に移すにあたっては数字の管理が必須になり、そのための帳票類の整備の徹底が不可欠であるためまず帳票類の作成から取り掛かりました。

自動車燃料は減少しましたが、これは仕事量が減ったのが原因と思われるので今後の推移を見守りたいと思います。

また、灯油及び電気(動力)の増加はアルミの溶解に使用する頻度が増したためと考えられます。

平成22年10月21日エコドライブの講習会

平成22年11月15日環境教育の実施を行いました。

[今後の取り組み]

帳票類を作成したことにより正確な燃費計算ができるようになりました。今後はこの数値をもとに正確なCO₂排出量を求め新たな目標値の設定に取り組みます。

2. 水道使用量の削減 (宮川)

基準値より8%強削減。洗車時の水道水の出っぱなし洗車をやめることによって実現しました。

[今後の取り組み]

雨水の利用等を検討します。

3. コピー用紙等の紙使用量の削減 (小野)

コピー用紙の裏面を使用することによって削減が実現したが、使用量を数値として出していないため今後の課題とします。

[今後の取り組み]

毎月のコピー用紙の使用量を明確にします。

4. 廃棄物の排出量の削減及びリサイクル化の向上 (宮川)

自社で発生した廃棄物については従来より自社ルートにより100%リサイクルができました。

事業系廃棄物については、今年度は産業廃棄物収集運搬の積替え保管の許可の取得を目標としリサイクル化の向上を目指します。

[今後の取り組み]

産業廃棄物の積替え保管の許可を取得し、リサイクル可能な廃棄物の仕分けに取り組みます。

5. 商品のグリーン購入の推進（小野）

用紙、文房具の購入の際は『グリーン購入法適合商品検索』を参照しました。

[今後の取り組み]

適時グリーン購入品を増やしていきます。

II 代表者評価及び見直し点(2011年4月)

エコアクションの取得を目指してから目標数値である CO₂ 排出量・水道使用量などを年1%削減と決めましたが、燃料値一つをとっても枠組みの変更を何度も繰り返し数々の数値の管理が不徹底であることが表面化しました。反面事あるごとに CO₂ 値に置き換える癖が社員についたことはよい傾向だと思えます。

今後の対策としては一人一人の役割分担及び責任を明確にし認識する事と、1か月に一回エコアクション担当者会議を設け数値の適正化並びに環境活動の取り組みの具体的方策を検討し、迅速に通達し実行していただきたいと思えます。

(株)アサヒリソース環境関連法規一覧

作成・改訂時		遵守確認・評価	
承認	作成	承認	評価

作成 23年5月30日

遵守状況 23年5月30日

見直し改定日 年 月 日

主な法規制	法律の内容	当社該当事項	管理部署 責任者	遵守状況 確認評価 結果
廃棄物処理法	自社発生廃棄物	自らの責任において処理する	藤田	○
	産業廃棄物収集運搬業	業許可申請・許可の更新期間5年	安藤	○
	一般廃棄物収集運搬業	業許可申請・許可の更新期間2年	安藤	○
	産業廃棄物管理票	保存期間5年	安藤	○
振動規制法・騒音規制法	指定地域内の工場等における事業活動や建設工事に伴う騒音(振動)を規制するため、騒音(振動)を発生させる特定施設の事前届出や建設作業の事前届出、規制基準の遵守等を定めている。	法の指定する指定地域内に当たらないため該当しない。	安藤	—
都道府県条例 NOx法	自動車の排気ガス中のNox及びPMの排出を抑制するため、対策地域内における一定規模以上の車両を使用する事業者のNox・PM排出抑制計画作成・提出、車種規制などを定めている。	該当なし	安藤	—
消防法	危険物の取扱・危険物保管施設等に関することを定めている。	アルミ熔解炉の設置許可申請	宮川	○
		少量危険物取扱従事者の有無	宮川	○
家電リサイクル法	家電廃棄物の収集、再商品化を推進するため、家電の製造業者・輸入業者、小売業者、消費者の義務等を定めている。	リサイクル券の3年間保管義務	安藤	○

法改定時見直しすべき法規一覧

主な法規制	法律の内容	当社該当事項	
容器包装リサイクル法	容器包装廃棄物の分別収集及び再商品化を促進するため、市町村による分別収集、適用事業者(容器包装利用者、製造事業者)による再商品化の実施等を定めている。	現在弊社に直接影響を及ぼさないが、 今後推移を見守る必要がある法規	
グリーン購入法	国等が環境への負荷が少ない環境物品の調達を推進するため、国等が環境物品の調達の責務を持ち、調達実績の概要報告等を定めている。		
地球温暖化対策推進法	京都議定書目標達成計画の策定及び温室効果ガスの排出抑制を促進するため、一定量以上の温室効果ガスの排出者による排出量の定期報告(毎年)等を定めている。		
環境基本法	日本の環境政策の根幹を定める法。		
大気汚染防止法	工場等の事業活動や建物の解体にともなう煤煙、揮発性有機化合物、特定粉塵(石綿)および粉塵の排出を規制するため、大気汚染の原因となる施設の事前届出、吹付け石綿等を使用している建物の解体作業の事前届出、排出基準の遵守及び測定義務等を定めている。		
水質汚濁防止法	工場等から公共用水域に排出される水の排出及び地下に浸透する水の浸透を規制するため、水質汚濁の原因となる特定施設の事前届出、排出基準の遵守及び測定義務等を定めている。		
悪臭防止法	工場等における事業活動にともなって発生する悪臭を規制するため、アンモニア等の悪臭原因物質の規制基準の遵守、野焼きの禁止等を定めている。		
土壌汚染対策法	特定の有害物質を取り扱っていた工場跡地等における土壌汚染状況の調査、原状回復等について定めている。		
省エネルギー法	工場、輸送、建築物及び機械器具等のエネルギーの使用の合理化を図るため、一定量以上のエネルギーを使用する事業者及び一定規模以上の輸送業者・荷主に対して、エネルギー使用状況の届出・中長期計画の提出、一定規模以上の建築物に対する省エネ措置、エネルギーを消費する機器へのトップランナー方式の導入を定めている。		
新エネルギー法	新エネルギー(石油代替エネルギー)利用を促進するため、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、廃棄物発電等を新エネルギーと位置づけ、新エネルギー利用促進に関する基本方針の策定、事業者の新エネルギー利用計画の認識等を定めている。		
オゾン層保護法	ウィーン条約の的確かつ円滑な実施を図るため、特定フロン等の特定物質の製造許可、特定物質の輸出時の届出、輸入時の承認、特定物質の排出抑制・使用合理化の努力義務等を定めている。		

チェック項目	法・条例規制の新設/更新情報及び動向の把握と自社事業への影響の有無・大小判断
フォロー事項	上記チェックの結果を踏まえ、必要に応じて詳細を調査、対応策検討・実施

違反・訴訟の有無

環境関連法規の違反及び訴訟は、設立から現在までありません。

外部からの苦情等の受付

現在までに排出事業者やお客様、その他第3者等からの苦情等は発生しておりません。収集運搬にあたり、近隣の皆様に騒音等で迷惑が掛からないように配慮しております。また、廃棄物の種類や量等がマニフェストと相違がないかチェックし、また運搬中に廃棄物の飛散流出等を起こさない方法で収集運搬に取り組んでいます。

化学物質の使用について

化学物質の使用はありません。

平成23年4月20日

担当 安藤哲也

緊急事態への準備・対応

(株)アサヒリソース

平成22年10月1日

部門	現象	原因	環境影響	対応策	予防策
第1事業部 (一般・産業 廃棄物部門)	廃液(酸, アルカリ, 溶剤, 油)の流出	ポリタンクキャップの緩み	・廃液(酸, アルカリ, 溶剤, 油)の地下浸透, 水質汚濁	1. 常時ウエス5~6枚を用意 2. 流出廃液は迅速に拭取る	1. 全廃液タンクキャップの締付け確認
	・車両の炎上 ・廃棄物の炎上	混入ライター等からの発火→ガス缶, スプレー缶への引火	・大気汚染 ・火災危険 ・人的被害 ・交通渋滞	1. 初期消火の実行	1. 消火器の定期点検 2. 消火器使用方法訓練 3. 消火器の充実
第1事業部 (廃家電収集 運搬部門)	フロンの大気放出	エアコン, 冷蔵庫収集運搬時の事故→配管破損	地球温暖化	特になし	1. 荷崩れ防止の積載方法 2. 積載前にジョイント締忘れ, 洩れ点検
第2事業部 (非鉄金属部門)	火災	溶解中のアルミの飛散	・大気汚染 ・類焼危険 ・人的被害	1. 初期消火の実行	1. 雨天時の作業休止(主任判断) 2. 消火器の適性配備 3. 火災対応の判断基準(A1が周囲50cm以上に広がったら避難)
	騒音の伝搬	・破碎機からの騒音 ・アルミ溶解炉の騒音 ・フォークリフト運転騒音	近隣への騒音被害	1. クレーム受付→作業中止→対応策検討	1. 帰社時アイドリングストップ 2. 騒音発生メカニズムの研究 3. 騒音防止策の検討
第3事業部 (資源回収部門)	収集運搬中の古紙廃棄物の飛散	・交通事故 ・強風	飛散古紙による環境汚染	1. 安全な場所に駐車する(ハンドルは左一杯に切っておく) 2. 可能分の現地回収	1. 後方ガード板使用のルール化(前から半分積んだら使用) 2. 後方ガード板を立てる 3. 更にシートロープ, ネットを掛ける
	石油ストーブ残留灯油の流出	・石油ストーブ, ファンヒーターの不適切な積載 ・残留液量過多(客先)	灯油の地下浸透	1. 常時ウエス2~3枚を用意 2. 流出灯油は迅速に拭取る	1. タンクに灯油の残留あれば引取り拒否(拒否理由カードを添付する) 2. 積み方一極力水平を保つ 3. 置き場—フラットスペース確保(助手席, 屋根上)

緊急事態対応の訓練結果

緊急時の対応及び連絡表(別紙)を作成しました。電話や担当者等の変更がありましたら、その都度作成していきます。

横須賀消防署より津久井作業所において消火訓練を実施してもらいました。

実施日：平成23年2月25日

弊社社員7名参加

担当者：宮川一喜